



こんにちは♪

民主 苦小牧号外
2026年
3.29
No.1134

日本共産党市議会議員
小野寺ゆきえです!



「平和と繁栄」とIR

3月議会では『イランをめぐる軍事行動の即時停止と外交による平和解決を求める決議』を、全会派一致で採択しました。決議文の案を作ってくれたのは会派市民の桜井忠議員です。「今こそ求められるのは、軍事力ではなく対話と外交による平和的解決です」と、即時停戦と積極的な外交努力を主導するよう政府に求める内容です。「軍事力ではなく対話と外交による平和的解決」というのは、だれもが一致できる共通の認識だということが、あらためて明らかになりました。

それなのに、トランプ大統領への高市首相の言葉は、「世界中に平和と繁栄をもたらすのはドナルドだけ」と礼賛するものです。多くの死者を出し、小学校まで爆撃するトランプ大統領のどこが「平和と繁栄」なのでしょう。しかも「私に国際法は必要ない」と好き勝手な行動に出るト

ランプ大統領です。ここまで迎合する高市首相の資質も大きく問われます。私は、このような人物が首相であることを恥かしく思います。

市議会は、1983年に『核兵器廃絶平和都市の決議』をあげ、2003年には市民運動と共同して『非核平和都市条例』を制定し、平和なまちづくりを先導してきた歴史があります。今後、トランプ大統領領に要求され、自衛隊が派兵されるかもしれません。危険な動きを止めるためにも、苦小牧から一層強い平和の声をあげるよう取り組みたいと思います。

もう1つ市議会で問題になったことは、カジノを含むIRリゾートのための予算1100万円を計上したことです。この予算には、共産党市議団だけが反対しました（民主 苦小牧を参照してください）。IRの収益のうち、カジノ（賭博場）の収益は8割を占めます。IRを安定的に継続的に運営するためには、カジノ収益が多くなければなりません。カジノ収益は、賭博で負けることで生まれます。こんな不健全なリゾートは絶対に必要ありません。

ギャンブル依存症も心配です。市長は「しっかりと対策を取ることで、依存症を最小限にできる」と答えました。私は驚きました。被害が少なければ良いということです。“子どもど真ん中”が聞いて呆れます。IR・カジノも「平和と繁栄」に逆行します。高市首相も市長も、認識を改めるべきです。